

氏名	しかだ まきたか 鹿田 将隆
所属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
学位の種類	博士（作業療法学）
学位記番号	健博 第 212 号
学位授与の日付	令和 3 年 9 月 30 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	An examination of the psychometric properties of the occupational identity questionnaire for community-living elderly who require care (介護を要する地域在住高齢者を対象とした作業同一性質問紙の計量心理学的特性の検討)
	主査 准教授 谷村 厚子
	委員 教授 小林 法一
	委員 教授 石井 良和 (群馬パース大学)

【論文の内容の要旨】

高齢者人口は世界的に増加傾向であり、高齢者を対象とした作業療法実践の必要性も増している。高齢者への作業療法実践には、高齢者の主観的なライフコースを計画に取り込むことが有用であることから、自分が何者であり、将来、どのようでありたいのかという認識である作業同一性に関する情報を評価することは重要である。筆者らは、高齢者の作業同一性を明らかにするための作業同一性質問紙案（以下、**OIQ-P**）を作成した。本研究の目的は **OIQ-P** の計量心理学的特性を検討することである。

方法

対象は地域在住の要支援・要介護高齢者で、11 の都道府県にある通所系サービスまたは訪問系サービスを提供する 21 施設から募集した。収集したデータは、対象の基本情報や **OIQ-P**、作業遂行歴面接（以下、**OPHI-I I**）の作業同一性尺度の評定結果などであった。分析では、**OIQ-P** の構造的妥当性、基準関連妥当性、内的一貫性を検討した。構造的妥当性では、まず、因子構造を明らかにするために、探索的因子分析（以下、**EFA**）を実施し（最尤法、プロマックス回転）、因子負荷量が 0.40 以下の項目を削除した。次に、**EFA** で得られた結果をもとにモデルを作成し、確認的因子分析（以下、**CFA**）を実施した（最尤法）。適合度指標には、 χ^2/df 、Goodness-of-fit index（以下、**GFI**）、Comparative Fit Index（以下、**CFI**）、Root Mean Square Error of Approximation（以下、**RMSEA**）を用いた。

そして、Rasch 評定尺度モデル（以下、RSM）を用いて、適合度を検討した。基準関連妥当性の検討では、作業同一性尺度の合計点を外的基準とし、CFA の結果で採用した OIQ の項目の合計点との Spearman の順位相関係数を算出した。内的一貫性では、対象者分離指数と対象者分離信頼性係数を用いた。

結果

対象は男性 42 名、女性 93 名の合計 135 名であった。EFA の結果、因子負荷量が 0.40 以下の項目であった 7 項目が削除され、3 因子 14 項目となった。次に CFA の結果、得られたモデルの適合度指標は、 $\chi^2/df=1.46$, GFI=0.91, CFI=0.94, RMSEA=0.058 であり、適合度の基準を満たした。RSM では、14 名の参加者と 1 項目において適合基準を満たさなかったが、おおむね良好な結果であった。OIQ と OPHI-I I の作業同一性尺度間の Spearman の順位相関係数は 0.278 ($p<0.01$) であった。そして内的一貫性では、対象者分離指数は 2.30、対象者分離信頼性係数は 0.84 であった。

考察

本研究の結果、信頼性と妥当性のある 3 因子 14 項目からなる OIQ が開発できたと考えられる。EFA で得られた因子構造に基づいた CFA の結果、良好な適合度が得られたことから、構造的妥当性が確認された。RSM では適合基準を満たさなかったが、その要因は作業同一性が良好な対象者や 4 件法に極端な反応を示す対象者が含まれていたためであると推察された。そのような対象に実施する際には注意が必要である。対象者分離指数と対象者分離信頼性係数から内的一貫性のある尺度であることが検証された。基準関連妥当性では、OIQ と作業同一性尺度で有意な弱い相関がみられた。これは、OIQ は対象者が主観的に自分自身の作業同一性の問題を判断することに対し、作業同一性尺度は作業療法士が判断するが、この判断の差異によって生じたものと考えられる。今後は、OIQ の臨床有能性を検討するために、解釈可能性の検討や OIQ を用いた介入研究を実施する必要がある。